

2005年における日本の貿易について

福岡県企画振興部調査統計課 久間敏彦

1 はじめに

2002～2004年の3年間に顕著な増加を示したアジア・中国向け輸出の伸びが2005年にはいって鈍化しています。さらに、西欧向け輸出が減少しています。

一方、原油価格等の高騰により輸入額が急増しており、貿易黒字幅の縮小傾向が出てまいりました。

これら、2005年からの貿易の趨勢について、月・地域・品目別に分析を行い、その要因を調べていきたいと思えます。使用した統計データは、財務省・貿易統計です。

2 2005年以前の趨勢（2000～2004年）

日本の輸出額について、2000～2004年の4年間で18.4%の増加を示し、大きく寄与したのはアジア向けで同時期39.4%増、特に中国向けは2.4倍の急増となっています。

北米向けは、同時期△10.0%の減少です。

輸入額については、同時期20.2%の増加で、これもアジアからの輸入が同30.3%増加し、うち中国は同71.7%増です。

表1 地域別輸出額（2000～2004）

単位：億円

	計		北米		西欧		アジア		中国		韓国	
	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数
2000	516,542	100.0	161,624	100.0	90,002	100.0	212,542	100.0	32,744	100.0	33,088	100.0
2001	489,792	94.8	155,092	96.0	83,258	92.5	197,322	92.8	37,637	114.9	30,719	92.8
2002	521,090	100.9	157,912	97.7	81,635	90.7	224,387	105.6	49,798	152.1	35,724	108.0
2003	545,484	105.6	142,668	88.3	89,289	99.2	253,183	119.1	66,355	202.6	40,225	121.6
2004	611,700	118.4	145,568	90.0	97,895	108.8	296,368	139.4	79,942	244.1	47,851	144.6

指数は、2000年を100として各年の2000年実績に対する増減の割合を示したものです。

表2 地域別輸入額（2000～2004）

単位：億円

	計		北米		西欧		アジア		中国		韓国	
	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数
2000	409,384	100.0	87,277	100.0	55,671	100.0	170,627	100.0	59,414	100.0	22,047	100.0
2001	424,155	103.6	86,215	98.8	59,810	107.4	179,871	105.4	70,267	118.3	20,884	94.7
2002	422,275	103.1	81,399	93.3	60,813	109.2	183,584	107.6	77,278	130.0	19,368	87.8
2003	443,620	108.4	77,042	88.3	63,219	113.6	197,268	115.6	87,311	147.0	20,712	93.9
2004	492,166	120.2	76,801	88.0	68,297	122.7	222,242	130.3	101,990	171.7	23,834	108.1

指数は、2000年を100として各年の2000年実績に対する増減の割合を示したものです。

3 2005年からの趨勢（2005年1～7月）

(1) 総額・地域別・貿易バランス

ア. 輸出 2005年1～7月の輸出額は、対前年同期比で4.1%増と鈍化し、アジア向け輸出の同時期の増加も同じ割合となっています。また、数年来大幅な伸びを記録してきた中国向けも同4.1%増と同じ伸びです。

北米向けは、同5.2%増で最近5年間の減少傾向から増加に転じていることが注目されます。西欧向けは、同△2.5%減です。

表3 地域別輸出額（2005年1月～7月）

単位：億円、%

	総額		アジア		中国		その他アジア		北米		西欧	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
計	363,512	4.1	175,531	4.1	46,967	4.1	128,568	4.1	87,825	5.2	55,265	-2.5
1月	44,123	3.2	21,279	7.8	5,627	13.4	15,651	5.9	10,394	-1.2	7,080	-5.9
2月	48,467	1.7	22,452	0.9	5,764	-2.3	16,687	2.0	12,235	6.3	7,837	-2.7
3月	57,761	6.1	27,756	5.6	7,356	5.8	20,400	5.6	13,868	7.5	9,051	-4.9
4月	55,062	7.8	26,759	7.3	6,811	4.0	19,948	8.4	13,137	8.1	8,585	6.0
5月	47,961	1.4	23,494	1.5	6,429	0.0	17,067	2.1	11,528	4.5	7,055	-5.3
6月	54,781	3.6	26,831	3.2	7,329	2.2	19,503	3.6	13,407	5.9	7,645	-6.3
7月	55,357	4.3	26,961	2.5	7,650	6.7	19,310	0.9	13,256	4.5	8,012	2.0

%は、対前年同月比、対前年同期比。

イ. 輸入 2005年1～7月の輸入額は、同12.0%の増加となり、アジアからの輸入も同じ割合の増加で、そのうち中国からの輸入は同17.4%増となっています。

中東からは、原油価格の高騰により同33.8%と急増しています。

表4 地域別輸入額（2005年1月～7月）

単位：億円、%

	総額		アジア		中国		その他アジア		北米		西欧		中東	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
計	309,559	12.0	139,160	12.0	65,524	17.4	73,637	7.7	45,228	0.7	39,984	1.2	48,180	33.8
1月	42,184	11.4	19,599	12.8	9,386	18.2	10,213	8.3	5,838	0.9	5,951	5.3	6,134	23.3
2月	37,570	11.4	17,054	18.5	7,606	31.9	9,449	9.5	5,389	0.4	4,918	-3.3	5,889	16.4
3月	46,573	7.7	21,238	8.8	10,176	11.3	11,062	6.6	6,889	-2.9	6,295	-3.9	7,051	27.2
4月	45,482	12.8	20,472	11.9	10,111	17.8	10,361	6.7	6,777	1.5	5,968	11.8	7,052	29.9
5月	45,033	18.7	19,959	15.8	9,081	19.0	10,878	13.3	6,442	1.6	5,764	8.3	7,011	55.3
6月	46,096	11.0	20,639	10.9	9,690	16.4	10,949	6.4	7,066	-1.1	5,465	-4.4	7,205	42.1
7月	46,622	11.6	20,199	7.3	9,474	12.4	10,725	3.3	6,826	4.8	5,623	-3.4	7,839	44.4

%は、対前年同月比、対前年同期比。

ウ. 貿易バランス 貿易黒字は、同△25.9%減となっています。これは、2005年からのアジア・中国向け輸出の停滞と原油等の価格高騰による輸入額の増加によるものです。

特に、この傾向は5月に顕著に見られ、同月の貿易黒字は対前年同月比△68.7%と大きく減少しています。

(なお、1月も貿易黒字が大きく減少していますが、この月は例年アジアの旧正月等の要因により、増加・減少の幅が極端となる傾向があり参考にできません。)

表5 貿易バランス (2005年実績) 単位: 億円、%

	輸出 ①		輸入 ②		①-②	
計	363,512	4.1	309,559	12.0	53,952	-25.9
1月	44,123	3.2	42,184	11.4	1,939	-60.3
2月	48,467	1.7	37,570	11.4	10,897	-21.9
3月	57,761	6.1	46,573	7.7	11,188	0.0
4月	55,062	7.8	45,482	12.8	9,580	-10.9
5月	47,961	1.4	45,033	18.7	2,928	-68.7
6月	54,781	3.6	46,096	11.0	8,685	-23.9
7月	55,357	4.3	46,622	11.6	8,736	-22.6

%は、対前年同月比、対前年同期比。

(2) 品目別

ア. 輸出 2005年1~7月の期間において、輸出品目で増加の伸びが大きいのは、原料別製品の中の鉄鋼(対前年同期比24.9%増)、一般機械の中の金属加工機械(同23.6%増)、建設用鉱山用機械(同16.8%増)、原動機(同12.1%)です。

一方、大きく減少している品目は、電気機器の中の半導体電子部品(同△4.9%減)、音響映像機器の部分品(同△7.7%減)、一般機械の中の電算機類(△17.1%減)です。

これは、電気機器全般に価格が下落していることと、同機器の海外での生産、部品等の現地調達進展によると考えられます。

表6 品目別輸出額 (2005年1~7月) 単位: 百万円、%

	価 額	対前年同期比	構成比
計	36,351,177	4.1	100.0
原料別製品	4,173,810	12.8	11.5
鉄鋼	1,750,071	24.9	4.8
一般機械	7,565,278	4.9	20.8
原動機	1,233,180	12.1	3.4
電算機類	447,924	-17.1	1.2
金属加工機械	672,437	23.6	1.8
建設用鉱山用機械	507,581	16.8	1.4
電気機器	7,891,411	-4.1	21.7
半導体電子部品	2,379,566	-4.9	6.5
音響映像機器の部分品	653,576	-7.7	1.8
輸送用機器	8,487,222	4.4	23.3
その他	8,233,456	7.8	22.7

(ア) 鉄鋼

鉄鋼は、前述のとおり金額ベースで対前年同期比 24.9%の増加を示していますが、これを重量ベースで見ますと同△6.7%の減となっており鉄鋼価格の上昇が大きく影響しています。

主な輸出先はアジア向けで同時期、輸出全体の 80.3%を占めています。

表 7 鉄鋼の輸出先別価額 (2005年1月～7月) 単位: 百万円、%

	価 額	対前年同期比	構成比
計	1,750,071	24.9	100.0
アジア	1,404,782	24.2	80.3
中国	365,108	18.8	20.9
EU	41,199	18.5	2.4
アメリカ	98,261	51.6	5.6

(イ) 金属加工機械

同機械も対前年同期比で 23.6%増の高い伸びを示しています。主な輸出先はアジア向けで同時期、輸出全体の 58.3%を占めています。

中国向け輸出について5月から急減しており、この理由として日系企業の日本からの設備輸入の手控えが影響していると考えられます。

表 8 金属加工機械の輸出先別価額 (2005年1月～7月)

単位: 百万円、%

	計		アジア		中国		アメリカ	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
計	672,437	23.6	391,998	19.9	122,513	24.3	136,108	24.8
1月	79,566	31.5	50,152	50.1	15,605	86.6	14,151	26.9
2月	90,220	33.0	54,362	36.8	17,751	41.9	17,739	29.4
3月	117,536	35.5	69,391	30.9	22,871	48.0	23,048	29.4
4月	103,970	22.6	59,666	14.4	21,009	37.7	20,628	27.1
5月	84,327	21.7	46,196	8.9	13,259	0.7	17,282	26.4
6月	96,509	10.5	55,640	9.1	14,135	-15.1	20,695	11.4
7月	100,309	14.5	56,591	2.3	17,883	4.3	22,565	25.9

%は、対前年同期比、前年同月比。

(ウ) 建設用鉱山用機械

同機械は、対前年同期比で 16.8%増となり、主な輸出先はアメリカ、アジアで全体の 58.9%を占めます。中国向けが同△48.2%の大幅な減少となっていますが、これは、中国政府の不動産バブルを抑えるための需要抑制策により、建設ブームが沈静化しだした結果と思われる。

表9 建設用鉱山用機械の輸出先別価額（2005年1月～7月）単位：百万円、%

	価 額	対前年同期比	構成比
計	507,581	16.8	100.0
アジア	128,932	-8.4	25.4
中国	24,571	-48.2	4.8
EU	85,567	29.5	16.9
アメリカ	169,793	26.8	33.5

(エ) 輸送用機器

同機器の輸出額は対前年同期比 4.4% 増となっており、アメリカ向けが同 5.5% 増と全体の伸びに大きく寄与しています。

アメリカ向けが好調な理由は、ガソリン価格上昇により燃料効率の良い日本メーカーのハイブリッドカーや小型車の需要が高まっているためです。

（ハイブリッドカーの中の1 銘柄の北米向け輸出台数：2004年1～12月で56,419台、2005年1～6月で54,459台：聞き取りによる。）

EU向けが同△5.6%と減少しているのは、西欧ではガソリン価格上昇に対してディーゼル車への転換で対処しているためと思われます。

表10 輸送用機器の輸出先別価額（2005年1月～7月）単位：百万円、%

	価 額	対前年同期比	構成比
計	8,487,222	4.4	100.0
アジア	1,276,222	5.6	15.0
中国	223,633	-23.0	2.6
EU	1,368,617	-5.6	16.1
アメリカ	3,033,648	5.5	35.7

イ. 輸入 2005年1～7月において、輸入額が大きく増加している品目は鉱物性燃料の中の原油及び粗油（対前年同期比 36.1% 増）、原料別製品の中の鉄鋼（同 55.0% 増）です。

表11 品目別輸入額（2005年1～7月） 単位：百万円、%

	価 額	対前年同期比	構成比
計	30,955,935	12.0	100.0
鉱物性燃料	7,410,194	30.2	23.9
原油及び粗油	4,345,568	36.1	14.0
原料別製品	3,089,778	13.2	10.0
鉄鋼	496,693	55.0	1.6
一般機械	3,202,876	7.3	10.3
電気機器	4,029,597	2.4	13.0
その他	13,223,490	7.6	42.7

(ア) 原油及び粗油

同油の輸入は5～6月にかけて金額、量ベースで対前年同月比が急増しており、7月では量ベースで横ばいですが、金額ベースで急増となっています。

表 12 原油及び粗油の月別輸入実績 単位：百万円、千キロリットル、%

	価額	対前年同期比	数量	対前年同期比
計	4,344,328	36.1	126,844	2.1
1月	518,461	13.5	19,069	3.0
2月	515,936	20.6	17,580	-4.6
3月	612,700	31.3	20,360	1.5
4月	638,438	28.4	17,798	-10.3
5月	638,826	65.1	18,715	15.5
6月	668,671	48.7	19,927	14.9
7月	752,536	48.5	17,822	0.8

%は、対前年同期比。

(イ) 鉄鋼

鉄鋼のアジアからの輸入が急増しており、対前年同期比 66.8%増（うち中国からは同 86.1%増）の伸びを示しています。

日本国内の鉄不足に対応したものであると同時に、中国が 2005 年上期に粗鋼の輸出国に転じた影響もあると思われます。

表 13 鉄鋼の輸入先別価額 (2005 年1 月～7 月) 単位：百万円、%

	価額	対前年同期比	構成比
計	496,693	55.0	100.0
アジア	348,130	66.8	70.1
中国	129,616	86.1	26.1
EU	26,022	40.3	5.2
アメリカ	11,615	13.8	2.3